

南南京陥落と相前

支那国府全権の崩壊切迫 臨時政府成立具体化せん!

(上海九日)南京の陥落愈々迫り、国府全権の崩壊と今や時間の問題となつて、國互挙つて今や奈にの極に達せんとしてある。
(北京九日)南京陥落切迫と見て北支新政府樹立就運は急進展の形勢にあり、南京の陥落と相前後して臨時政府の成立が具体化するものと見られるに至りぬ。

皇軍南京城内に突入!!!

東側及び南側の城門我軍に帰す 彼我の戦闘愈々酷...

(上海十日)十日早朝南京城は完全に我軍の手に陥り、城門の各要塞、山々に日軍旗が掲げられ、南京城を陥れてある。
(上海十日)午後一時頃我軍は南門を突破し、東側及び南側の城門我軍に帰す。彼我の戦闘愈々酷しく、城内は煙霧に包まれ、砲火の音が絶えず響いている。

(上海十日)南京城陥落後、我軍は城内に入り、市民の安全を確保し、残敵の掃討にあつた。
(上海十日)南京城陥落後、我軍は城内に入り、市民の安全を確保し、残敵の掃討にあつた。

我が投降勸告を無視して 支那側我軍を攻撃

我が投降勸告を無視して支那側我軍を攻撃する旨の電報が、九日午後、南京方面から東京に送られた。

我軍蕪湖を占領

(上海十日)我軍は九日午後六時蕪湖を占領した。蕪湖は南京の南東にあり、重要な交通路である。

支那事変の新段階に 対応すべき我方方針 廟議を一決!

(東京十日)十日の廟議は支那事変の新段階に際すべく、國策に關し重要協力の結果大體一致の意を表明し、一長期間戦争継続支那建設工作に対する支那政府の意向を、我々日本が尊重し、かつ支那の主権を尊重する旨の共同宣言を發表した。

蔣介石 蕪湖に到着

(上海九日)蔣介石は八日蕪湖に到着し、南方面の軍情を視察した。

日支事変を続けるゼネバの情勢

日支事変は支那問題から、国際問題へと発展し、世界の注目を集めている。

支那問題の解決は、国際協力の助けを借りて行なわれるべきである。

支那事変は、東洋の和平を脅かす重大な事柄である。我々日本は、支那の主権と領土の完整を尊重し、かつ支那の建設を支援する立場に立っている。

Agencia Internacional de Diarios
LIBRERIA BARNA
LAVALLE 365
U.T. 37-4315

世界最高級豪華雜誌
ニッポン(定例500部)
西、英、佛、独、葡、露、米、日
日本國情海外宣傳雜誌
御知合の外入方面への贈
物として必ず悦ばれます。

英国の支那に援助

重要各団体の英国は、支那に財政的援助をする事により、支那の経済を復興させるべきである。

南京陥落!!!
(十日午後南京公使館着電)
十日午後南京が先鋒部隊に陥り、各部隊は追いつけず、市民の安全を確保すべく、城内に入り、市民の安全を確保し、残敵の掃討にあつた。

南京刻々陥落の運命を辿る！ 敵軍城門の鉄扉を閉ざし必死の抵抗

(上海九日) 我の觀察で南京城は次々破城され、

(上海九日) 八日東總攻撃の砲撃は各部隊は敵軍を破

南京防衛司令官に対し投降勧告！

(上海九日) 上海午後七時發、松井嚴高指揮官は本日

景風京南の前落陷

城外は宛然生地獄！ 傷兵地に満ち、火焰天を蔽ふ

(上海九日) 八日南京城は八日陥落の南京

止し、城外は敵軍に

市内の惨状

(北京九日) 八日

の地獄に陥る運命を辿る

(湯水九日) 中山門を前に控へる助川

南京陥落と蔣の立場

籠城中に政変突発 知らず

(倫敦八日) ロイテル上海電

ヒットラー愈々本格的に 日本と協力せん

(約林七日) ヒットラー

先王争つてマンクと其他

支那の幣制崩壊の存続の 注目される英國の援助如何

(上海八日) 南京陥落の後

京漢地方敵方の白系露人 反共運動を起し 日本詰習習会開設

(北京九日) 北支に於ける防

赤系ロシア新聞社に 手榴彈投擲！

(上海八日) 八日午後七時五

CONFITERIA ELABRA
LIMA 557

パンツルセ
マサス
ボンボネス
一キロ、ニヘソ

PANDULCE
MASAS
BOMBONES

御客様には美
麗な懐中鏡を
差し上げます

伊政府聯盟退を決意

(ロンドン九日)伊本利は伊工紛争以来聯盟との協力方針を堅持して来たが、聯盟が依然として併合承認の原則を固執して居るので、日独兩國に依り近く正式に聯盟を脱退する意向を示す。伊本利は今日、新聞記者に語り、正式に脱退することを報告する。伊本利は今日、新聞記者に語り、正式に脱退することを報告する。

ソ聯政府の在外使臣清掃工作

常軌を逸して狂気の沙汰

△△歐洲隣接諸国との摩擦増大セ

東京九日)ソ聯政府の在外使臣清掃工作は、その後次第に常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。ソ聯政府は、在外使臣の清掃工作を、常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。ソ聯政府は、在外使臣の清掃工作を、常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。

東京九日)ソ聯政府の在外使臣清掃工作は、その後次第に常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。ソ聯政府は、在外使臣の清掃工作を、常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。ソ聯政府は、在外使臣の清掃工作を、常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。

東京九日)ソ聯政府の在外使臣清掃工作は、その後次第に常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。ソ聯政府は、在外使臣の清掃工作を、常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。ソ聯政府は、在外使臣の清掃工作を、常軌を逸して狂気の沙汰と見られる。

有為の青年將校の陸大入学に特典

東京十日)今回の軍事で北支上海の兩線に立つて青年將校が敢然と一線に立つて奮戦、名譽の戦傷を蒙つて居るが、これら前途有為の青年將校が更に進んで陸軍大学に入学せんとする時は、戦傷に依り、身体の故障のある者も現役は堪へる。このため陸軍大学は、又、専科生としての特格を有するものとす。十日、軍司令部十五号令で、陸軍第六十号公布で示す。

伊太利聯盟を脱退し

独乙と共に英佛に拮抗?

英諸国に對し伊本利外交政策の真意を説明する

(ロンドン九日)イギリス首相は十日夜、アムステルダムで開かれた英法聯軍最高會議に出席し、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。首相は、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。首相は、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。

(ロンドン九日)イギリス首相は十日夜、アムステルダムで開かれた英法聯軍最高會議に出席し、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。首相は、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。首相は、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。

(ロンドン九日)イギリス首相は十日夜、アムステルダムで開かれた英法聯軍最高會議に出席し、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。首相は、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。首相は、伊太利聯盟を脱退するに決意したことを説明した。

南京陥落を俟つて

御前會議を請ふ

東京九日)政府は南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。

東京九日)政府は南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。

東京九日)政府は南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。

東京九日)政府は南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。政府は、南京陥落後、御前會議を請ふ。

DOCTOR
Gonzalez Achaval
CORRIENTES 938
U.T. 0973
ROSARIO
CONSULTA 14 A 18 HORAS

多年日本人諸氏の治療に従事す
特に小兒齒科治療に熟達す
アチヤバル博士はシカゴ齒科大學出身です

伊太利聯盟退せば

聯盟は完全に崩壊

日運通商航海條約

(ロンドン九日)伊本利が聯盟を脱退するに決意したと報じられた。この結果、聯盟は完全に崩壊する。日運通商航海條約は、八日、正式に調印された。

(ロンドン九日)伊本利が聯盟を脱退するに決意したと報じられた。この結果、聯盟は完全に崩壊する。日運通商航海條約は、八日、正式に調印された。

(ロンドン九日)伊本利が聯盟を脱退するに決意したと報じられた。この結果、聯盟は完全に崩壊する。日運通商航海條約は、八日、正式に調印された。

谷公使の北支出張

北支と日満との係

極東觀光路設定か

東京九日)谷公使は北支に出張する。谷公使は、北支に出張する。谷公使は、北支に出張する。

東京九日)谷公使は北支に出張する。谷公使は、北支に出張する。谷公使は、北支に出張する。

東京九日)谷公使は北支に出張する。谷公使は、北支に出張する。谷公使は、北支に出張する。

松竹東宝の共同進出

北支に新娯樂街建設

松竹東宝の共同進出

東京九日)松竹東宝は北支に共同進出する。松竹東宝は、北支に共同進出する。松竹東宝は、北支に共同進出する。

東京九日)松竹東宝は北支に共同進出する。松竹東宝は、北支に共同進出する。松竹東宝は、北支に共同進出する。

東京九日)松竹東宝は北支に共同進出する。松竹東宝は、北支に共同進出する。松竹東宝は、北支に共同進出する。

明年度予算案審議のため 政府臨時議会召集の方針

次期大統領選決定も多忙であり、一九三七年の政界も正に終らんとするに拘り、明年度予算案は審議終了のまゝ、臨時議会召集し、閣下宙ぶらりんと居り、果して政府は明年度予算案審議のため臨時議会を召集するや否や、固く疑念の余地を六へておられ、政府は去る四日午後三時、協定の意向に於て、フスト大統領以下閣僚出席の臨時議会開催、その結果、明年度予算案審議のため臨時議会を召集するに方針を決定し、召集期日は就てはアセウエド蔵相が下院予算委員会委員の意向を聴取、それは若くして政府は召集日を定める事に決した。

本年の亞國航空界 未曾有の進歩を示す

益々昂まる諸設備完備の要望

亞國の航空界現狀は先般パンアメリカン航空会社及びパンアメリカン・グレート・航空会社、の發着表が正しく、大西洋洋又は太平洋沿岸經由北米亞國間所要飛行時間は従来は四日半、或は三日半に短縮され、パンアメリカン航空会社においては廿一人乗旅客機を本年に入つて使用し、去る七月、武市、コルドバ、ツクマ、サルタ、フアイアを経てホルニアのラ・パリスに至る線、新設、パンアメリカン・グレート・航空会社はコンセアシアント・ウルグアイ、コンコルディア、カセロス、コリエンテス、フオカセロ、フエロを経てパラグアイ、アスンシオンに至る線、新設、これら、中南米連絡の便宜を計つてゐる、一方コンドル

を通過せしめ、たまふために臨時議会を開くのか、知れぬ、いし、又、公正な立場から立法府の協賛を得たる予算案の必要を痛感しての臨時議会召集の方針を知れぬ。

大敵ランゴスタ
驅除は農家大産

ランゴスタの襲来で武州、サンタフェ、コルドバ、エントリオス、コリエンテス、フエロ、フオカセロ、の諸地方の被害は相当ある、このため、回下農家はランゴスタ駆除に努力してゐる、が諸地方を通じて一般に煙燻用の燃料不足の難あり、その爲の報告が各地より頻々として來る、農務當局は鉄道局と相談の結果、ランゴスタの襲来を地方にテイル・フエロ・オイ、ル輸送貨車四輛を配給して燃料補給に努めてゐるが、

被害
被害除の最中にて

判明せず、武州のラ・パリス、ラスコンチマス、ロ・ボス方面は於ては耕作面積の五乃至十のサンタフェ州ラファエラ方面では七乃至十四、エントリオス州コルディア方面では六が見當の被害見積りが立てられてゐる。

亞國內資本
社として

エリオ、ボスタ、アルヘンティノ、新設され、武市、リウオグニ、デ(テイエラ、デ、エゴ)資本線として、ネットワーク、サハラ、パリオ、エ、エス、クエル、マ、線とする航空路を開設せんとしてゐる状態にあり、かく亞國航空界は一九三七年に至り空前の發展を示すに至つた、然し、ながら航空

POLICLINICO DEL DOCTOR *Cornejo Köster*
AVENIDA DE MAYO 1534 1º Piso D
U.T. 97-2259 DE 17 A 20 HORAS

治療卓効費用低廉
コステル内外科医院

コステル博士はラモス・メヒア病院の医師、独逸に医学を修め、ペルーにて永年診療に従事す

淋病、梅毒、皮膚病、胃腸、心臓、肺臓、腎臓、小兒科、婦人科諸病診療に應ず

御遊興は是非！
ダンシング
パリスで、
麗人百人！サーウイス万矣

Dancing Paris
L. N. ALEM 268

自轉車大賣出！
白漆製の自轉車及び六人用自動車が入荷致しました。同様の価格には特別割引致します。御希望の方は先知れぬうちに御買上願ひます。地方へは直接送達の御便宜を取計らいます。

安東商会
市内デフェンサ街五四〇
L.T. 55 (アベニダ) 三九六

蔵田書店
市内カセロス街一九八五
L.T. 23 (アベニダ) 九八七

あひりか丸
一月廿四日入港
あひりか丸
一月廿五日入港

日本の経済力は想像以上 モンテネグロ氏の日亜貿易講演

既報、前駐日親善大使アルン・モンテネグロ氏の「日亜貿易の現在及び将来」に就いての講演は、日亜貿易の現状を、最近の九日午前十一時半より同會議所に於て開演、最近健康恢復したばかりのモンテネグロ氏を提督はじめ、四十名内外の邦人、知府約二十名の聴衆あり盛會であつた。

席上アマテオ博士立って、抑々日亜貿易の自由均等は、日亜貿易の精神により明らかになつてゐるのであるが、昨今世界各國の利害交錯繁雑、極め、高に固具體化され、ある日亜通商協定締結交渉に於ても利害相反する。

某國の暗躍があり、而もその意であるか、如き誤解を一部に与へ、該交渉上は一大支障を及ぼしてゐることは甚だ遺憾である、その旨を述べて開演の終つて、モンテネグロ氏は一同に紹介、愈々モンテネグロ前代理公使の講演に入る、氏は先づ日本の對外貿易の沿革を述べて日亜貿易の將來を展望し、

福岡領事着任

新任領事福岡重吉氏は昨十日午後四時十分モロコシ飛行機に乘車、公館員金野等始め、商業會議所関係、日會役員、諸組合代表等多数の出迎へがあつた。

新領事送迎会

日會を始め、各團體、共同主催寺嶋、福岡新領事送迎會は既報の如く本十一日午後五時より日會を館で開演される。

愛國機献金続到

本社を通じて各地より、愛國機献金募集、締切迫ること、金中込みは果敢激増して来たが、今回本社を通じて五記の通り申込み、あつた。ラファエラ市邦人、及外人三石

原料國たる

進歩は常に變動的態度に終始して来たが、これは直ちに改め、今後積極的に並國産物の紹介を、同時に相手國に對する正当なる認識を得るやう吹かぬば、その「資源の少ない日本」と云ふことは、免角「経済状態の幼稚日本」と解され易い、否さ

この「日本の低労働賃銀」の如き其の論議の的は外れ、事實は低賃銀による生活費及び低賃銀によつての輸出工業の發達、それによる市場の増加等、彼の世界経済界大恐慌に際し、何百万人もの失業を齎した各國を、互國に独り日本のみかその重圧に耐へ得た上、改革をその経済的躍進の

目覚ましき

そのが、労働賃銀の高値まのみ比較して、非難し、商品の安値あるを以て、ソシヤルゲンヒンゲンと断するが如きは、當を得てゐないと述べた。

祝電飛ぶ

我が方の祝降勅告を、既つて無意味な抵抗を、武平軍も、武士の心、けし、解し、おいて、皇軍の統率に逢ふや、あつても、昨十日午後五時、分、南京陥落は、遠く、一報は、電波によつて、昨夕公使館に入電、之は、対し、寺嶋代理公使は、在留民を代表し、一は、日本人会長より、手出は、より、祖國に向け、二本の祝電を送つた。

カフエー店讓度

七ヶ年経営盛業中の弊店（カフエー東京）突然の都合に依り大至急讓度し、讓度格安、現金少額、残額月賦、好条件、家賃格安、希望の方は直ちに左記の所へ面談又は大書にて交渉有り、

コトバ市 宮里盛善
A Miyazaki Cafe Tokyo
San Genshimo 1st Building

演藝会御案内

謹啓 各位益々御清栄の御幸と存じます、陳本協會支那主催にて愛國機献金募集支援助演藝會、主事により相續すこと、ふりましたから、何卒近隣御訪合せて多敷御来観下さる様御願ひ申上げます。

左記
一日時 十二月十二日（日）午後三時より八時まで
一場所 アスクエナカ街一五八番地（リヂングビル）三階より下
一入場料 一円五十仙

中村日本人会長より左、如く申出たり、
南京陥落ノ報ニ接シ在留民一同欣喜雀躍ニ堪ヘズ僅ンテ御祝申上ゲ、
此ノ機ニ皇軍將士ノ御幸方ヲ多謝スルト共ニ武運ノ長入ヲ祈リ併セテ戦死者ノ功勳ヲ悼フ

駐日親善大使 寺嶋廣文
外務大臣閣下

領事送迎会は大祝賀會

南京陥落により本日午後、領事送迎會は祝賀會をかねる旨、日會より発表あつた。

金は三十ペソ、津井和一、十ペソ、宛、森園謙一、三ペソ、酒井三、五ペソ、酒井和民、三ペソ、全、和也、三ペソ、全、明、この外市街が玉城徳助十ペソ、島袋兄弟、十ペソ等があつた、向メンドサ日本人青年會でも、目下愛國機寄附金募集中で、あり、近頃日會に送る旨通信あつたが、星清蔵氏の五百ペソ、田村一恵氏の百ペソ、五筆頭、一同大奮発し、あり、総計、一十ペソを起へる筈である。

祝電飛ぶ

我が方の祝降勅告を、既つて無意味な抵抗を、武平軍も、武士の心、けし、解し、おいて、皇軍の統率に逢ふや、あつても、昨十日午後五時、分、南京陥落は、遠く、一報は、電波によつて、昨夕公使館に入電、之は、対し、寺嶋代理公使は、在留民を代表し、一は、日本人会長より、手出は、より、祖國に向け、二本の祝電を送つた。

カフエー店讓度

七ヶ年経営盛業中の弊店（カフエー東京）突然の都合に依り大至急讓度し、讓度格安、現金少額、残額月賦、好条件、家賃格安、希望の方は直ちに左記の所へ面談又は大書にて交渉有り、

コトバ市 宮里盛善
A Miyazaki Cafe Tokyo
San Genshimo 1st Building

演藝会御案内

謹啓 各位益々御清栄の御幸と存じます、陳本協會支那主催にて愛國機献金募集支援助演藝會、主事により相續すこと、ふりましたから、何卒近隣御訪合せて多敷御来観下さる様御願ひ申上げます。

左記
一日時 十二月十二日（日）午後三時より八時まで
一場所 アスクエナカ街一五八番地（リヂングビル）三階より下
一入場料 一円五十仙

中村日本人会長より左、如く申出たり、
南京陥落ノ報ニ接シ在留民一同欣喜雀躍ニ堪ヘズ僅ンテ御祝申上ゲ、
此ノ機ニ皇軍將士ノ御幸方ヲ多謝スルト共ニ武運ノ長入ヲ祈リ併セテ戦死者ノ功勳ヲ悼フ

駐日親善大使 寺嶋廣文
外務大臣閣下

領事送迎会は大祝賀會

南京陥落により本日午後、領事送迎會は祝賀會をかねる旨、日會より発表あつた。

山下汽船發着
山里丸（金田船）本月廿四日入港
南満丸 明年二月五日入港
山彦丸 神戶本月廿二日出帆
武蔵丸 二月廿八日入港

賣店
目下盛業中のカフエー店、好条件にて、沖繩果人に讓度し、
詳細は左記へ
市内アルバレストマス街四六
比嘉昌電

演藝会御案内
各日時 十二月十二日（日）午後三時より八時まで
一場所 アスクエナカ街一五八番地（リヂングビル）三階より下
一入場料 一円五十仙

祝電飛ぶ
我が方の祝降勅告を、既つて無意味な抵抗を、武平軍も、武士の心、けし、解し、おいて、皇軍の統率に逢ふや、あつても、昨十日午後五時、分、南京陥落は、遠く、一報は、電波によつて、昨夕公使館に入電、之は、対し、寺嶋代理公使は、在留民を代表し、一は、日本人会長より、手出は、より、祖國に向け、二本の祝電を送つた。

カフエー店讓度
七ヶ年経営盛業中の弊店（カフエー東京）突然の都合に依り大至急讓度し、讓度格安、現金少額、残額月賦、好条件、家賃格安、希望の方は直ちに左記の所へ面談又は大書にて交渉有り、

コトバ市 宮里盛善
A Miyazaki Cafe Tokyo
San Genshimo 1st Building

Japón quiere imponer la paz en el Asia Oriental

"La guerra entre el Japón y China es el mayor acontecimiento de la política mundial desde la guerra europea de 1914-1918", dice el señor Francisco Nitti, ex-primer ministro de Italia que actualmente vive en París.

Aunque los sucesos de China no es exactamente una guerra entre la Nación Japonesa y la China, estamos de acuerdo en que el asunto tiene una trascendencia extraordinaria en la política mundial, por cuanto él significa que ha cambiado radicalmente la situación del Asia Oriental por obra del Japón. Las potencias occidentales tendrán, desde hoy en adelante, que tratar a las naciones y pueblos del Oriente con las mismas consideraciones que los del Occidente. Es el primer triunfo en beneficio de los pueblos del Oriente que el Japón consigue con su actitud firme, sin más ambición que la realización del principio del derecho de la igualdad para todos los hombres del mundo, sin distinción de razas ni de credos.

El anciano hombre de estado que no puede seguir la evolución, no comprende lo que pasa en el lejano Oriente, y juzgando por la historia de los países occidentales que él conoce, supone que el Japón es una dictadura militar, y, siguiendo la creencia vulgar en Europa, formula opinión de que los sucesos actuales de China son obra de la milicia japonesa que domina la política japonesa.

El Japón es una nación unida por tradición y convicción. El pueblo es ilustrado y no está sometido por ningún poder dictatorial. Los asuntos nacionales son discutidos públicamente. Es el país más democrático que existe de hecho, y no existe la diferencia notable entre los ricos y la masa del pueblo como en algunos países de Europa o en China.

El señor Nitti que hace algunos años estudió las condiciones económicas del Japón, y que le pareció tan excelentes, parece que se ha olvidado ya todo lo que entonces leyó, que le hizo emitir opiniones favorables al Japón, desmintiendo la existencia del dumping comercial o social en el Japón.

El Japón busca de fundar la paz duradera en el Asia Oriental, según lo ha declarado solemnemente Su Majestad el Emperador, siendo explicado en reiteradas ocasiones por los ministros del Gabinete Imperial.

Para cimentar la base sólida es menester quitar del lugar todos los elementos dañinos que o tienen raíces arraigadas o pretenden extenderse para evitar que sea implantada un régimen de progreso.

La China que se dejó engañar por su debilidad está sufriendo las consecuencias que también le cuesta al Japón un sacrificio grande, que lo hace por su existencia amenazada y por la futura grandeza del Oriente.

El señor Nitti, igual que el señor Guillermo Ferrero, trata de defender a Inglaterra, diciendo que Inglaterra es tolerante, respeta todas las razas, todas las religiones, todas las costumbres, y

no busca jamás sustituirse a las poblaciones conquistadas; que critica que el Japón no consigue, fuera de sus confines, tener contactos amistosos con las poblaciones dominadas, diciendo que todavía en Corea, la población es desconfiada, en Manchuria el descontento es difuso!

La realidad lo desmiente todo lo que dice el señor Nitti, que no conoce el Oriente.

La Corea y Manchuria son paraísos coloniales que los mismos ingleses y americanos son los primeros en reconocer!

El Japón no va a conquistar y dominar los pueblos para someterlos como la Inglaterra que tiene a la India en la misma condición de hace un siglo. En cinco años la Manchuria está convertido en un Estado civilizado y próspero.

Estas son las mejores pruebas para desmentir las palabras del anciano político occidental.

El Japón quiere imponer la paz en el Extremo Oriente, exenta de toda influencia perniciosa para ella.

Comercio Argentino-Japonés

En el último número hemos estudiado sintéticamente el intercambio comercial argentino-japonés, manifestando nuestro parecer sobre el porvenir del mismo.

Aquí vamos a estudiar lo que la Argentina podría hacer en pro de su desarrollo.

Es conveniente, ante todo, que la Argentina cambie de táctica cómoda y anticuada de esperar que otros hagan todo para ella. Un país de la condición de la Argentina debe obrar por su cuenta y riesgo sobre un plan positivo, de acuerdo, con la conveniencia nacional. El comercio exterior es para la República la fuerza motriz de su progreso, porque es la distribución de sus productos que no pueden ser consumidos en el país.

El Japón ha trabajado durante 40 años para establecer el comercio japonés en esta plaza, que le costó no pocos sacrificios, y ha tendido vías de comunicaciones para el intercambio sin pedir ninguna contribución a la Argentina; la cual aprovecha esas facilidades no sólo para el comercio con el Japón, sino con otros países y hasta del continente americano. Las facilidades de esa vía marítima ha abaratado grandemente el costo de las arpilleras que la Argentina compra de la India, las cuales antes venían por vía y trasbordo en Europa, recargadas de fletes y de comisiones.

Gracias a esas líneas de vapores va extendiéndose el comercio argentino en todos los países del Oriente, incluso el Africa. Son cosas que conviene que tengan en cuenta los que estudian el comercio argentino.

Volviéndonos al fondo del tema, consideramos que hace falta que la Argentina organice su comercio exterior, de acuerdo con la importancia de la potencia económica que ella constituye en el intercambio mundial, coordinando los esfuerzos oficiales y particulares y fijando un plan verdaderamente nacional.

Una vez determinado el plan o política económica del país, los comerciantes argentinos deben salir al exterior a implantar su comercio, en vez de continuar esperando la intervención de los terceros, especialmente si desea conquistar los mercados nuevos que es menester para el futuro.

Para la comprensión fácil de la gente que no saben las condiciones del Japón y del Asia Oriental, diremos para que nos entiendan de una vez por todas, lo siguiente:

La situación de la China de hoy es como una región poblada por gentes maleantes, sostenida por cabeceillas extrañas a la comarca, que fomentan a aquéllos para que continúen causando daños para el país y los vecinos; es como un incendio que destruye toda la construcción nacional y el Japón que vive al lado está luchando para apagar ese fuego destructor, mientras que los mal inspirados forasteros venden ocultamente nafta y bombas para que los bandidos organizados chinos que no son su pueblo verdadero, hagan durar y hacer más grande la foguera.

El Japón está luchando, pues, para sanear el territorio chino, que puede todavía llegar a constituirse una gran nación digna de ser respetada por todas las "potencias".

Este gesto noble del Japón es el que no pueden comprender esas potencias, porque al realizar la aspiración japonesa desaparecerá la dominación europea del Oriente. He ahí la clave!

Para sacar mejor provecho de los productos abundantes y buenos que posee la Argentina, la actividad del comercio del país es imperativa por el progreso general de la Nación.

La Argentina necesita tener sus agentes comerciales y hasta bancarios en los principales mercados del mundo. Tiene un buen ejemplo en el Canadá, cuya actividad es admirable.

Partida del Dr. Hirobumi Terajima

Parte el lunes 13 del corriente, a bordo del "Cap Arcona", el encargado de negocios del Japón Dr. Hirobumi Terajima, con destino a Angora, donde se hará cargo de su nuevo puesto de Consejero de la Embajada Japonesa, en Turquía. Acompañan al señor Terajima, su señora y sus dos hijas.

El señor Terajima, en su permanencia comparativamente corta entre nosotros, ha debido hacer frente a múltiples problemas relacionados con las representaciones diplomáticas y consulares, en ausencia del ministro titular, demostrando su habilidad que las autoridades del ministerio de relaciones exteriores, han reconocido al otorgarle un ascenso extraordinario que significa el rango que hoy ostenta.

Deseamos al señor Consejero y su familia un feliz viaje y mejores éxitos en sus nuevas funciones.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

Compañía Japonesa de Navegación

todos los miércoles a las 19 horas.

POR

RADIO
EXCELSIOR

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

PAGINA DE ACTUALIDADES

ACTIVIDADES MILITARES

Shanghai, diciembre 6. — Un buque nipón, se apoderó de otro chino encallado en el río Yan-Tze, izándose la bandera nipona.

Shanghai, diciembre 6. — La marinería nipona consiguió abrir el paso al pie de la batería Kiang-Yin, permitiéndole pasar a un cañonero que atacó inmediatamente a la fortaleza de Tiens-Heng-Chiang.

—o—

Tokio, diciembre 6. — El Estado Mayor declara que la aviación del ejército nipón bombardeó a los buques chinos que estaban transportando varios cientos de miles de soldados chinos sobre el río Wuhu.

Entre los buques hundidos habían dos de más de mil toneladas.

—o—

Tokio, diciembre 6. — Según la declaración del Estado Mayor, el ejército nipón avanza a través de la cordillera Mopang y ha pasado por la región norte de Kuyung a las 15 del día 6 y por la fortaleza Soshu, situada a 20 kilómetros de Nankín.

—o—

Shanghai, diciembre 6. — El ejército chino de los alrededores de Nankín, ha iniciado la retirada hacia el sur y el grueso del ejército de Wuhu, se traslada a la orilla norte del río Yan-Tze.

—o—

Tokio, diciembre 6. — Un comunicado del Estado Mayor dice: A partir del 28 de noviembre una parte del ejército nipón que conquistó la batería de Kiang-Yin, se apoderó de los siguientes materiales bélicos: 8 cañones antiaéreos de 8 cms.; 1 ametralladora antiaérea de 10 mm.; 7 cañones de 30 cms., 4 de 24 cms.; 3 de 20 cms.; 2 de 17 cms.; 9 de 15 cms.; 8 de 15 cms.; un aparato de iluminación de 150 cms. y 6.000 balas de cañón.

EL PUEBLO CHINO QUIERE LA PAZ

Shanghai, diciembre 6. — China comienza a reconocer su derrota y a comprender que su prolongación sólo haría sufrir a su población en el caso de continuar inútilmente la resistencia.

La opinión pública se inclina a considerar que es conveniente firmar la paz con el Japón

ACERCA DE LA MEDIACION ALEMANA

Shanghai, diciembre 6. (Domei). — Se dice que el Mariscal Chiang-Kai-Shek, expresó ante el embajador alemán, su decisión de resistir hasta el fin a las fuerzas niponas, en oposición así al discurso pronunciado por Wang-Chao-Ming, en Hang-Kow en pro de la reconciliación.

Estas dos tendencias opuestas, en víspera de la caída de Nankín, son los problemas que más preocupan a las diversas clases de China

SE CALMA LA ATMOSFERA DE SHANGHAI

Shanghai, diciembre 6. — Admitida la demanda japonesa de seguridad por las autoridades del Consejo Municipal de Shanghai, la atmósfera se ha despejado renaciendo la calma en todos los barrios.

Tokio, diciembre 4. — Según informaciones recibidas por el Ministerio de Marina, han sido disueltas 50 sociedades antijaponesas de Shanghai y 1.300 han pasado como adherentes a las organizaciones pro-japonesas.

NOMBRAMIENTO DE UN ARZOBISPO JAPONES

Tokio, diciembre 5. — El nuncio apostólico, hizo saber al reverendo Tatu Doi que fué nombrado arzobispo de Tokio.

Es la primera vez que un japonés es nombrado arzobispo.

CHIANG-KAI-SHEK, PIDE LA AYUDA DE RUSIA Y DE GRAN BRETAÑA

París, diciembre 6. — Personas bien informadas en el círculo diplomático francés dijo saber por conducto de la embajada China de París, que Chiang-Kai-Shek trata, para recuperar su poder, por todos los medios asegurar la ayuda de los Soviets y los ingleses.

LOS CHINOS DESTRUIRIAN A NANKIN ANTES DE EVACUARLA

Nueva York, diciembre 3. — El corresponsal de la Associated Press, en Nankín telegrafió que los chinos se proponen destruir o incendiar todos los edificios de Nankín, cuando se acerquen las tropas japonesas, antes de evacuarla.

SUI YUAN SE NORMALIZA

Sui-Yuan, diciembre 5. — Gracias al ejército nipón que mantiene el orden en la región, todo se normaliza y prospera, la gente que vive satisfecha de la nueva situación, libre de la influencia roja del comunismo.

EL ABOGADO BRITANICO MAITLAND SERA JUZGADO ANTE EL TRIBUNAL

Shanghai, diciembre 4. — El abogado británico que en ocasión del desfile de tropas niponas cometió un agravio a la bandera japonesa, y que fué arrestado, será juzgado ante el tribunal de Justicia.

DEMANDA JAPONESA, EN SHANGHAI

Shanghai, diciembre 4. — Como consecuencia del incidente de las bombas de la avenida Nankín, el coronel Kusumoto, en representación del general Matsui, exigió a la población de la Concepción Internacional que tome medidas para evitar la repetición de los hechos, reservándose el derecho de que sus tropas entren en todos los barrios de la concepción internacional si juzga insuficiente las precauciones de las autoridades. El incidente ha quedado completamente resuelto por las notas cambiadas entre ambas autoridades.

ACUERDO ITALO-MANCHUKUO

Shin-King, diciembre 6. — Ante un pedido del nuevo Embajador Italiano en Manchukuo, señor Luighi Cortese, el Gobierno del Manchukuo, dió a publicidad el contenido del acuerdo celebrado con Italia.

HUYO EL MARISCAL CHIANG-KAI-SHEK

Shanghai, diciembre 9. — Se informa que el Mariscal Chiang-Kai-Shek, huyó a Nankín, en el avión Boeing piloteado por dos norteamericanos. Se afirma que en breve irá Hankow para entrevistarse con Wang-Chao-Wing.

—o—

Londres, diciembre 9. — Según informaciones de la Agencia Reuter, el avión en que el Mariscal Chiang-Kai-Shek y su esposa huyeron fué descubierto por un avión nipón consiguiendo apenas salvarse.

—o—

Londres, diciembre 9. — La noticia de la huida del Mariscal Chiang-Kai-Shek, ha causado gran sensación en esta ciudad. La noticia fué publicada en todas las prensas londinenses la que coincide en manifestar su sorpresa ante la debilidad de la resistencia china. Por consiguiente, la política conciliatoria de Gran Bretaña que se puso de manifiesto después de la extinción de la resistencia en Shanghai se acentúa evidentemente. De esta manera en el Ministerio de Relaciones Exteriores de Gran Bretaña no se percibe más la actitud hostil del pasado contra el nipón. Ya no hay lugar a dudas de que con la caída de Nankín la Gran Bretaña adoptará una nueva política exterior con respecto al Imperio Nipón para proceder mejor ante la realidad de las cosas, apartándose de la nueva teoría.

NANKIN ANTES DE SU CAIDA

Informáse de Shanghai que en la madrugada del viernes las fuerzas japonesas presionan sobre Nankín, después de abrir brechas en las gruesas murallas de la capital. Créese, en consecuencia, que los nipones ocuparán la ciudad antes de media noche.

—o—

Nueva York, diciembre 9. — Según informaciones de la Agencia A. P. procedentes de Nankín, la situación general y el aspecto que ofrecían la ciudad de Nankín el día 8 eran los siguientes:

"En las afueras de la ciudad el ejército incendió todas las casas cuyos daños materiales ocasionados son muchos más grandes que los causados por los bombardeos aéreos nipones. En las puertas de la ciudad se han amontonado grandes cantidades de bolsas de arena y se construyeron defensas de cemento de más de 6 metros de espesor, ofreciendo así el aspecto de una plaza."

—o—

Shanghai, diciembre 7. — Nankín fué rodeada por el ejército atacante por tres lados y se cree que dentro de poco su caída definitiva. Las unidades que avanzan desde Kintan pasaron la noche del 6 hacia el aeródromo de Nankín, apoderándose de este inmediatamente.

La fortaleza de Nankín se halla a la vista de los atacantes.

—o—

Shanghai, diciembre 7. — El Mariscal Chiang-Kai-Shek, su esposa y los acompañantes del Mariscal decidieron abandonar la ciudad de Nankín. Se dice que en la mañana de hoy partirán de ésta.

—o—

Shanghai, diciembre 7. — Las unidades Hasegawa y Okamoto han pasado la región montañosa de Canteh y de Kienping apoderándose sucesivamente de los pueblos de los alrededores de Tanyang continuando su avance en dirección al Oeste para atacar a los chinos de Wuhu por detrás.

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

UN ANIVERSARIO MAS

8 de Diciembre

La Sección Castellana de "El Argentin DjiJo", ha cumplido ayer tres años de existencia. Iniciamos con este número el trabajo del 4.º año.

Ha sido fecunda nuestra tarea, aunque modesta, especialmente en la segunda mitad del año, por la circunstancia y condiciones que imperan en el Asia Oriental, que obligó al Japón a despachar las fuerzas expedicionarias a China. La necesidad de informar la realidad de las cosas que allí suceden y para rectificar las falsedades propagadas por China y los interesados en perjudicar al Japón, hubimos de redoblar nuestros esfuerzos para servir por la causa de la verdad y en bien de la paz del mundo.

Seguimos manteniendo nuestra norma original que difiere de los demás diarios de las colectividades extranjeras: nosotros tratamos de informar a los argentinos amigos del Japón, todo lo relacionado a nuestro país, de la misma manera que en la sección japonesa insertamos informaciones argentinas de interés para el Japón y los japoneses, pero la parte importante de este pequeño periódico radica en la preocupación que presta en inculcar conocimientos argentinos a los pequeños argentinos, hijos de padres japoneses, quienes tienen poca oportunidad de cultivar en sus hogares de padres extranjeros el espíritu nacional argentino que han menester los futuros ciudadanos de la Nación Argentina.

Entramos al cuarto año de trabajo, plenamente satisfechos por el progreso alcanzado, alentados por el apoyo de los amigos que nos secundan directa o indirectamente. Al agradecer a nuestros favorecedores, nos complace manifestarles que seguiremos nuestra marcha ascendente con el entusiasmo inicial, guiado por el noble ideal que ilumina nuestra ruta, hacia adelante, siempre adelante.

Tokio, diciembre 7. — En lo alto de la montaña, en donde, descansan los restos del Gran Revolucionario chino Sun-Yat-Shen, y que domina el panorama de la ciudad de Nankín se ve flamear la bandera del Sol Naciente.

Nankín está en vísperas de caer en manos de los nipones. Los no-combatientes del Imperio isleño esperan ansiosamente la noticia que ha de llegar de un momento a otro. La entrada de los soldados nipones es un hecho.

En las calles metropolitanas de Tokio desbordan de entusiasmo y la frenética alegría de la victoria se exterioriza en toda forma a pesar de las declaraciones de los altos dirigentes político-militares quienes lanzan la advertencia de que la labor del Imperio recién se inicia y es necesario ante todo la serenidad de todo el pueblo nipón.

EL JAPON NO TIENE AMBICIONES TERRITORIALES

Tokio, diciembre 7. — El General Ugaki, ex-gobernador de Corea y uno de los militares de mayor influencia en el ejército, al ser interrogado por los periodistas sobre el actual conflicto con China, manifestó:

"Nosotros no tenemos ambiciones territoriales. China pertenece a los chinos y si los chinos del Norte piensan establecer un régimen autónomo en el Norte es un asunto de ellos. Nosotros deseamos que rectifique su política anti-japonesa y provocadora hacia el Japón. El gobierno actual de China, causante de esta lamentable situación toca a su fin y deseamos que surja en China un gobierno lo suficientemente estable y prudente como para que las situaciones dramáticas actuales no tengan repetición. Me preguntan ustedes a que obedece el resentimiento japonés hacia Gran Bretaña y yo les contesto que Gran Bretaña ha estado estimulando moral y materialmente a China prolongando inútilmente una lucha con su cortejo de pérdidas de vidas y de bienes, para China. También me preguntan por qué el Japón no

ha declarado la guerra a China y yo les debo decir que no lo hizo por dos razones: 1.º Porque no es una guerra contra China, contra el pueblo chino, sino una campaña punitiva contra el comunismo, que no es sino una minoría bulliciosa, escandalosa e internacionalizante; 2.º Porque una declaración de guerra habría provocado inconvenientes a las potencias amigas con las que el Japón se complace en mantener buenas relaciones.

CONFERENCIA DEL Sr. ARTURO ALVAREZ MONTENEGRO

La conferencia del señor Arturo Alvarez Montenegro, dada en la Cámara Argentina de Comercio, ha sido un éxito. El estudioso y activo diplomático ha satisfecho la expectativa que había despertado su anunciada conferencia sobre el tema comercial que es de actualidad.

La presentación del orador que estuvo a cargo del presidente de la citada Cámara, Dr. Tomás Amadeo, fué, sin duda, un discurso excepcionalmente bueno, por su contenido.

Hemos de publicar esos discursos en nuestros números próximos.

EN LA ASOCIACION JAPONESA EN LA ARGENTINA HUBO FIESTA DE FIN DE CURSO ESCOLAR

En su local de la calle Patagones, realizó la fiesta de fin de curso escolar, la Asociación Japonesa en la Argentina, el domingo 5 del corriente, reuniendo, con tal motivo numerosos socios, alumnos y sus familiares.

ENTRE EL CONDE KABAYAMA Y EL ALMIRANTE DOMEQ GARCIA

Hubo un cambio cordial de telegramas entre el Conde Aysuke Kabayama, Director General de la Sociedad de Fomento de Cultura Internacional — la Kokusai Bunka Shinkokai — de Tokio, y el almirante Manuel Domeq García.

El miembro de la Cámara de los Pares del Imperio, el erudito doctor Kabayama que dirige desde la fundación la sociedad cultural mencionada, mandó un mensaje radiográfico al Almirante Domeq García, felicitándole por su restablecimiento y congratulándolo por el 60 aniversario de su incorporación a la marina de guerra argentina; aprovechando la oportunidad expresa su reconocimiento por su constante labor en pro del mayor acercamiento entre el Japón y la Argentina.

El Almirante Domeq García le contestó agradeciendo la atención del Conde Kabayama, formulando votos por el éxito de la K. B. S.

LLEGO EL CONSUL FUKUMA

Por vía aérea, llegó ayer el señor T. Fukuma, secretario de la legación y cónsul ad hoc del Japón, quien reemplazará al señor H. Terajima.

CURSOS DE JAPONES

Dieron término a las tareas del año los cursos de idioma japonés que se dictan en el Instituto Cultural Argentino - Japonés.

Este año han concurrido casi el doble de los alumnos de otros años, habiendo llamado la atención de cuantos han podido observar las clases, el entusiasmo e interés con que se dedican los alumnos y alumnas que estudian el idioma japonés.

BECAS PARA ESUDIAR EN JAPON

Por gestiones de la Legación del Japón en Buenos Aires, las autoridades del Instituto Internacional de Estudiantes de Tokio que ofreció dos becas para Universitarios Argentinos, ha ampliado las mismas incluyendo en cada beca los gastos de pasaje de ida y vuelta que será costado por dicha Institución. Las becas se tramitan por el Instituto Cultural Argentino - Japonés.

ULTIMA HOJA

Tokio, diciembre 10. — Los japoneses iniciaron el ataque general contra Nankín, al no recibir contestación a su ultimatum por la rendición de la ciudad de Nankín.

COMERCIO ARGENTINO-JAPONES

Cifras Japonesas

La Legación del Japón ha dado a la publicidad las siguientes estadísticas relativas al intercambio argentino-japonés correspondientes a los primeros diez meses del año en curso:

Exportación del Japón . . . 32.584.541 Yens
Importación de la Argentina 37.549.962 Yens
Saldo favorable a la Arg. . . 4.965.421 Yens

PUBLICACIONES DE LA KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI

(Sociedad de Fomento de Cultura Internacional)

Autor: Giacinto Auriti, obra: On Japanese Art, 1937; Autor: Pío C. Calica, obra: Japan Footnotes, 1935; Autor: Tsutomu Ema, obra: A Historical Sketch of Japanese Customs and Costumes, 1936; Autor: J. Fischer, obra: Dew-Drops on a Lotus Leaf, 1937; Autor: Shizuya Fujikake, obra: An Introduction to Japanese Art., 1936; Autor: Kikusaburo Fukui, obra: Human Elements in Ceramic Art., 1936; Los Elementos Humanos en la Cerámica. Les éléments Humains dans l'Art céramique; Autor: Nyoze-kan Hasegawa, obra: Educational & Cultural Background of the Japanese People, 1935; Autor: International Young Women & Children's Society, obra: Swimming in Japan, 1935; Autor: Shigetoshi Kawatake, obra: Development of the Japanese Theater Art, 1936; El Desarrollo del Arte Teatral Japonés; Autor: Kan Kikuchi, obra: History & Trends of Modern Japanese Literature, 1936; Autor: Kokusai Bunka Shinkokai, obras: A Guide to Japanese Studies, 1937; A Handbook of International Cultural Organizations in Japan, 1936; A Short Bibliography on Japan (in English); Bibliographie Abrégée des Livres Relatifs au Japon. (En Français, Italien, Espagnol, et Portugais), 1936; Die Neulinie, 1937; Gardens of Japan. (Lantern Slide Catalogue), 1937; The Noh Drama, 1937; Autor: Kuni Mtasuo, obra: Histoire de la Littérature Japonaise, 1935; Autor: Samuel Newson, obra: Japanese Gardens, 1937; Autor: Noel Nouet, obra: Tokyo, 1934; Autor: Leopold G. Scheidl, obra: Die Geographischen Grundlagen des Japanischen Wesens, 1937; Autor: W. Schmidt, obra: Neue Wege zur Erforschung der Ethnologischen Stellung Japans, 1935; Autor: W. J. Sebald, obra: The Criminal Code of Japan, 1936; Autor: Tadashi Sekino, obra: Summer Palace and Lama Temples in Jehol, 1935; Autor: Izuru Shimura, obra: Western Influences on Japanese History and Culture in Earlier Periods (1540-1860), 1936. Influencias Occidentales en la Historia y en la Cultura del Japón, 1937; Autor: E. A. Sturge, obra: The Spirit of Japan, 1934; Autor: Makoto Sugiyama and Kanjuro Fujima, obra: An Outline History of the Japanese Dance, 1937; Autor: Daisetz Teitaro Suzuki, obra: Buddhist Philosophy and its Effects on the Life and Thought of the Japanese People, 1936; Autor: Tsuyoshi Tamura, obra: Art. of the Landscape Garden in Japan, 1936; Autor: Hisao Tanabe, obra: Japanese Music, 1936; Autor: Bruno Taut, obra: Fundamentals of Japanese Architecture, 1936 y Grundlinien der Architektur Japans, 1936; Autor: Ryzo Torii, obra: Ancient Japan in the Light of Anthropology, 1937; Autor: Takeo Tsuchiya, obra: The development of Economic Life in Japan, 1936; Autor: Dr. Mitsuzo Tsurumi, obra: Les Relations Médicales Internationales, 1937; Autor: Soetsu Yanagi, obra: Folk-Crafts in Japan, 1936.

Nota: Los estudiosos que tengan interés por estas publicaciones podrán dirigirse al agente de la Kokusai Bunka Shinkokai o a la sección cultural de la Legación del Japón que les facilitará la tramitación para adquirirlas.

El conflicto Chino-Japonés

Por M. INAGAKI

Conferencia pronunciada en Ginebra en la Asamblea de la Unión Internacional de Asociaciones Pro-Sociedad de las Naciones. El señor M. Inagaki es delegado de la Asociación Japonesa.

(Conclusión)

¿Cuál será el deber de la Sociedad de las Naciones en la hora actual siendo que han comenzado las hostilidades? Es que la Sociedad de las Naciones es capaz de resolver la cuestión que divide a dos Naciones en lucha? Si no puede resolver la cuestión en su conjunto, podemos preguntarnos ¿en qué medida podrá ayudar a las dos naciones a llegar a una entente? Una cuestión más simple se plantea: la Sociedad de las Naciones podrá pedir a ambas partes que cesen las hostilidades? En mi concepto esta declaración no será ejecutada en la hora actual si la Sociedad de las Naciones no dispone de la fuerza necesaria para controlar la cesación de las hostilidades y el movimiento anti-japonés en el pueblo chino y en el ejército chino.

Aún en el caso en que el Gobierno de Nankín declarase que acepta esta demanda de cesación de hostilidades, la amenaza contra los japoneses y los ejércitos japoneses quedaría anulada si esta demanda no fuese acompañada por una fuerza superior a aquella de China. Y el Japón no aceptará jamás la intervención de la Sociedad de las Naciones mientras juzgue que esta intervención no se basa en la realidad. Fiel partidario de la

Sociedad de las Naciones, yo no puedo sino esperar, en principio, la colaboración de todas las Naciones del mundo en la solución de los diferendos internacionales.

Pero, en cuanto a la cuestión de la intervención de la Sociedad de las Naciones o de una tercera potencia en el conflicto actual, creo que es mi deber informaros cual es la opinión pública del Japón sobre este punto a fin de que podáis comprender mejor la situación. No hay que olvidar que la historia de la intervención de tres potencias europeas después de la guerra chino-japonesa de 1895, está todavía muy viva en la memoria de los Japoneses.

Cuando el Japón resultó victorioso de China en 1895, Rusia, Francia y Alemania concentraron sus flotas en el mar del Japón y exigieron al Japón que devolviera a China la casi-isla Liaotung (la parte Sud de la Manchuria) que China había cedido al Japón por el tratado de paz. Estas tres potencias basaron ese ultimatum en nombre de la paz en el Extremo Oriente. Después de esta intervención, Rusia tomó la casi-isla Liaotung y dominó prácticamente toda la Manchuria; Francia ha obtenido Kiaochaow y Alemania Chingtao. La revancha contra Rusia y Alemania ya tuvo lugar. En 1905, 10 años después de esta intervención, el Japón arrojó a Rusia de la Manchuria, y veinte años más tarde, en 1914, el Japón arrojó a Alemania de Chingtao en ocasión de la guerra mundial.

Esta historia de las tres Potencias es una historia bastante vieja, pero todavía vive en el corazón de los japoneses. Ha dejado en el pueblo japonés una impresión inolvidable y la creencia en los japoneses que todas las intervenciones eu-

ropeas en los asuntos del Extremo Oriente pueden ser parciales e injustas. En consecuencia, el Japón no aceptará de nuevo, hoy, en mi concepto, una intervención, sino está convenido que esta intervención sea justa e imparcial.

La Sociedad de las Naciones no existe fuera de sus miembros. La Sociedad de las Naciones no es nada más que un espejo de la faz del mundo. Representa el ideal de Estados miembros y puede actuar en el límite del poder de estos Estados. Ella no debe declarar o recomendar lo que no pueden ejecutar sus miembros. En la hora actual la Sociedad de las Naciones no puede asegurar la vida ni los bienes de los Japoneses en China, sino puede enviar tropas lo suficientemente numerosas para estacionar en diferentes partes de China. El Japón se encuentra al lado de China y el asunto con China es una cuestión de vida o muerte para él. Hoy, todo el Japón está convencido que China es la responsable de esta desgraciada situación y que ella ha buscado intencionalmente este conflicto armado. La decisión de la nación japonesa es firme.

La Asociación Internacional del Japón, es de opinión de que todo lo que pueden hacer las Asociaciones para la Sociedad de las Naciones, en la hora actual, es emprender un estudio profundizado sobre las condiciones generales de China.

Al terminar esta exposición, lamento, en nombre de la Asociación japonesa que la convocatoria a nuestra presente reunión ha contenido un orden del día redactado en términos que no están conformes con el espíritu y las costumbres de nuestra Unión Internacional. “Conflicto Chino-Japonés”, habría sido preferible al texto escogido.

“NAMBEI”
Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima
Telegramas “NAMBEI”
U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571
T. T. Buenos Aires, 904
SARMIENTO 470 BUENOS AIRES

H. KATO
Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería
HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841

SADAO HATTORI
IMPORTADOR
Especialidad en artículos de Cepillería
LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P

KATSUDA y Cía.
Importadores
MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2318

B. TAKINAMI
Importador
Casa Establecida en el año 1905
VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-9413

I. HIROTA
Importador de artículos generales del Japón
CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051

N. IKEDA
The National City Bank of New York
BARTOLOME MITRE 502
U. T. Avenida 33 - 4031

T. NISHIZAWA
Representante de
Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda.
FLORIDA 229 U. T. 33-5489

S. YAMADA y Cía.
Importadores
MORENO 2039
U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405

IIDA y Cía. Ltda.
(Takashimaya)
Importadores y Exportadores
RODRIGUEZ PEÑA 162
U. T. Mayo 38-3419

R. HARA y Cía.
Importadores
BELGRANO 1470
U. T. Mayo 38-2438 y 9437

CARLOS C. ISHIY
Importador y Exportador
Bm. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782

S. YOKOBORI
Representante de FUJISAKI y Cía.
CANGALLO 499
3er. Piso Esq. N.º 21-22 - U. T. 33-9390

TARO MURAI
Unica Casa Introdutora de
Porcelana “NORITAKE”
MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189

F. KANEMATSU y Cía. Ltda.
Importaciones y Exportaciones
JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824

PIDA SIEMPRE
Marca KANEBO
PARA TEJIDOS
Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989
U. T. 35-7632 2.º piso Oficina D

M. OMURA
Importador de artículos generales del Japón
SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683

S. ANDO y Cía.
Importadores
DEFENSA 532-40
U. T. 33 (Av.) 2296

JIRO HONDA y Hno.
Importadores de Artículos Generales del Japón
MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718

Casa “YAMANAKA”
Oriental Fine Art Curious
VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846

K. YASUNAGA
Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería
DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769

S. TSUJI
Importador
BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744

LA MAISON SATUMA
K. YOKOHAMA
Objetos de Arte y Antigüedades
ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601
Suursal:
SUIPACHA 865 - U. T. 31-4637

G. KATO
(C. YUASA)
Representante de
KATO BUSAN KAISHIA Ltd.
Av. Roque Sáenz Peña 825
U. T. 35-5696

Sastrería JAPONESA
Fundada en el año 1916
de S. KATAYAMA
PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452

GUIA JAPONESA
LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193.
CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.
CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1482.
INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.
ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4893.
COMPARIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565